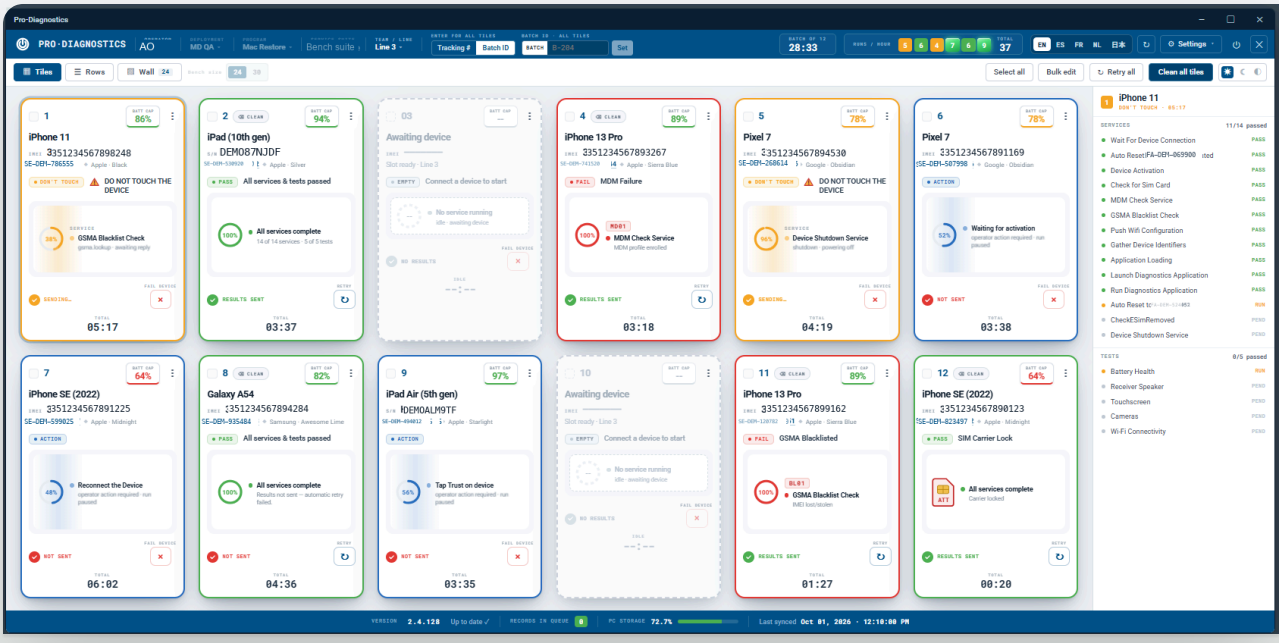
ASSET SCIENCE プラットフォーム

現場全体を1つのプラットフォームで運用。

iOS、Android、Mac、PC の受入、診断、消去、グレーディング、認証、レポートを同じ作業台で、1つのワークフローのもと、デバイスごとに1つのレコードとして実行します。ラボではなく、大量処理のリファービッシュ現場の中で開発されました。



対象読者
デバイス処理事業者、通信事業者、保険会社、ITAD 事業者の運用・IT・コンプライアンス責任者

取り扱う範囲
診断・テスト・現場・API・認証・データ消去

ウェブ
assetscience.com

エグゼクティブサマリー

入荷から販売まで、デバイスごとに1つのレコード。

受入、診断、消去、グレーディング、認証は、スプレッドシートをやり取りする6つのツールではありません。このプラットフォームではそれらが1つのレコードとなり、1つのワークフローを通り、1つの Control Center に書き込まれ、証明書、エクスポート、API として外に出ていきます。ステーションアプリは、すでにお持ちの Windows PC、Mac、iPad で動作します。ロックは報告するのみで、回避は行いません。Pro-Diagnostics と MacRestore の消去は ADISA 保証レベル 4 の認証を取得しています。PC では NIST 800-88 の方式に従い、ドライブごとの消去レポートを発行します。

目次

01 概要一覧 3
購入検討者が必ず尋ねる8つの質問

02 プラットフォーム 4
1つの Control Center、27 モジュール、4 種のホスト

03 診断とテスト 5
Android 133 · iOS 83 · Mac 23 · PC 25

04 対応デバイス 7
プラットフォーム別のテスト、消去、グレーディング、復元

05 現場 8
ステーション、ワークフロー、監査、UPH、ラベル、SKU

06 データ消去 10
ADISA AAL 4、NIST 800-88、検証の限界

07 認証 12
公開照会、PDF、バッチ、3つのスイッチ

08 データとレポート 13
個体ごとの履歴、ダッシュボード、エクスポート

09 API 連携 14
REST、スコープ付きキー、GSMA、自動化フロー

10 製品ラインアップ 15
10 製品、1つの Control Center

11 導入の進め方 16
自社施設のステーションで試せる無料トライアル

133
Android テスト
iOS では 83

23 · 25
Mac · PC テスト
ガイド付きと自動

27
搭載モジュール
1つの Control Center

AAL 4
ADISA 保証レベル
Pro-Diagnostics · MacRestore

12M+
年間処理デバイス数
現場での導入実績 800+

7
オペレーター向け言語
EN · ES · FR · DE · IT · JA · NL

本書の読み方。 3ページから14ページではプラットフォーム全体を説明し、各機能を担う製品名を記載しています。15ページには10製品を一覧で掲載しています。各製品には詳細を網羅した個別のホワイトペーパーがあります。

概要一覧

プラットフォーム全体で、購入検討者が必ず尋ねる8つの質問に回答します。

各回答には、その機能を担う製品名を記載しています。認証に関する記載は、認証取得製品名とともに、その適用範囲どおりに示しています。

証明書 ● はい

デバイスごとに1つの証明書：PDF、verified.assetscience.com/verify で IMEI、シリアル、MEID、GUID から誰でも開ける公開ウェブページ、そしてバッチ CSV またはバッチ PDF。Public Web Certification が担い、Pro-Diagnostic Desktop、Mac Restore、Pro-Diagnostic PC のレコードから発行されます。

ADISA 認証取得済み ● AAL 4

Pro-Diagnostics と MacRestore は ADISA 保証レベル 4 の認証を取得しており、ADISA Research Centre の Product Claims Test により第三者機関で試験されています。Pro-Diagnostic PC & Mac は ADISA 認証を取得していません。NIST 800-88 の方式とドライブごとの消去レポートを使用します。

消去の種類 ● NIST 800-88

コンテンツ消去 を iOS・Android、 **Express Connect** を USB デバッグ不要の Android 16+、 **スマートフォンのフラッシュ**, **Mac の消去** をファームウェア復元で、PC では **ドライブごとに Purge／Clear** をサンプリングのリードバックとともに実行。方式は全レポートに明記。

ガイド付きユーザーテスト ● はい

ガイド付きテストは **一度に1画面ずつ、決まった順序で**表示され、指示は7つのオペレーター言語で画面に示されます。自動テストは操作不要です。スマートフォンは Pro-Diagnostic Desktop、コンピューターは Pro-Diagnostic PC & Mac が担当します。

テストの種類 ● 133 · 83 · 23 · 25

Android 133、iOS 83、Mac 23、PC 25 のテスト を音声、バッテリーと電源、ボタン、カメラ、接続性、ディスプレイと入力、センサーとシステムで実施し、スマートフォンでは全件でロックと不正の検出も行います。

主な機能 ● 4

マルチデバイスステーション と作業台をまたぐワークフローマネージャー · **オペレーター監査と UPH** を製品に標準搭載 · **認証された消去** と公開証明書 · **1つの Control Center** で全ステーションのプログラムを一度だけ定義。

対応プラットフォーム ● iOS · Android · Mac · PC

iOS、Android、Mac、PC をテストし、iOS と macOS を復元・消去し、Apple Watch Series 1 から 6 を受け入れます。ステーションアプリは **Windows、macOS、iPad、起動可能な Linux スティック**で動作します。専用ハードウェアは不要です。

データ分析と API ● REST

個体ごとの履歴、オペレーター監査、UPH ダッシュボードと日次比較を Control Center で提供します。すべてのレコードには **Back-Office REST API**、列を選択できる CSV・Excel エクスポート、スケジュールレポートから取得できます。

7,000+
Android モデル
iOS 90 モデル · 4,500 バリエーション

4
ステーションホスト
Windows · macOS · iPad · Linux スティック

30,000
一括照会あたりの識別子数
1つの CSV から

47
エクスポート列
CSV · JSON · Excel

当社が行わないこと。 当社はロックを報告します。Apple ID・Find My、GSMA Lost & Stolen、FRP、パスコード、BIOS パスワード、Absolute、TPM。解除も回避も行いません。

プラットフォーム

現場のステーションアプリ、その背後にある1つのControl Center、そして証明書、エクスポート、APIとして出ていくレコード。

Control Center は、デバイスに何をするかを決める場所です。ステーションアプリは、すでにお持ちのマシン上でそれを実行します。

ステーションアプリ · 作業台で

Pro-Diagnostic Desktop
iOS と Android の診断と消去。Windows または macOS ステーション。

Mac Restore
iOS と macOS の復元、フラッシュ、消去。macOS ステーション。

Pro-Diagnostic PC & Mac
コンピューターの診断とドライブ消去。署名済み Mac アプリ、PC では起動可能な Linux スティック。

グレーディングとクリーニング
作業台の iPad でスキャンしてグレーディング。

Apple Watch Receiving
ケーブル経由の受入、Series 1 から 6。

CONTROL CENTER · 27 モジュール

一度定義すれば、すべてのステーションが従います。

ウェブベースで、複数拠点に対応します。プログラムは平易な言葉で記述した目標から始まり、各ステーションはテナントにサインインして指示された内容を実行します。

設定ウィザード · プログラム · プラットフォーム別テストスイート · 失敗コード · カスタムフィールド · SKU グループと SKU マネージャー · 拠点 · 導入環境 · シフト · チーム · オペレーター監査レベル · ワークステーション管理 · ラベル印刷とデザイナー · デバイススキャン · データインポート · 自動化フロー · GSMA ブラックリスト · デバイス履歴 · レポートと BI · API キー · ロールベースアクセス

アウトプット · 社外に出ていくもの

公開証明書
verified.assetscience.com/verify でのデバイスごとのページ、PDF、バッチ出力。

レポートとダッシュボード
個体ごとの履歴、オペレーター監査、UPH、日次比較。

REST API とエクスポート
スコープ付きキー、CSV と Excel、スケジュールレポート。

ラベルと連携
作業台での資産ラベル。NetSuite、MDM、ERP、WMS。

プログラムはスクリプトではなく、目標から始まります。 設定ウィザードは、受入、データ消去、診断、グレーディング、クリーニング、フラッシュ、クレーム検証を、指定した拠点と導入環境で、決まった順序でステーションが実行するサービスへと変換します。既定の設定バンドルにより、新しいテナントを素早く現場に投入できます。

専用ハードウェアは不要です。 本プラットフォームは、どこでも購入できる機器を動かすソフトウェアです。作業台の PC、Mac、バーコードスキャナー、ラベルプリンター、USB ケーブル。ロボットも、リグも、治具も必要ありません。

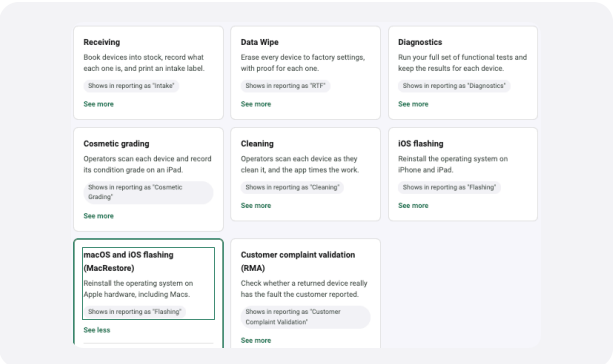


図1 Control Center → Guide Me → 設定ウィザード、ステップ 1。平易な言葉の目標とレポート表示。

診断とテスト

デバイスを接続し、識別し、プログラムが指定するスイートを実行します。

自動テストはオペレーターの操作なしで実行されます。ガイド付きテストは、画面上の指示とともに、一度に1画面ずつ決まった順序でオペレーターに提示されます。結果はデバイスごとに1つのレコードになります。

133
Android テスト
iOS では 83

23 · 25
Mac · PC テスト
Pro-Diagnostic PC & Mac

7,000+
Android モデル
iOS 90 モデル · 4,500 バリエーション

7
オペレーター向け言語
EN · ES · FR · DE · IT · JA · NL

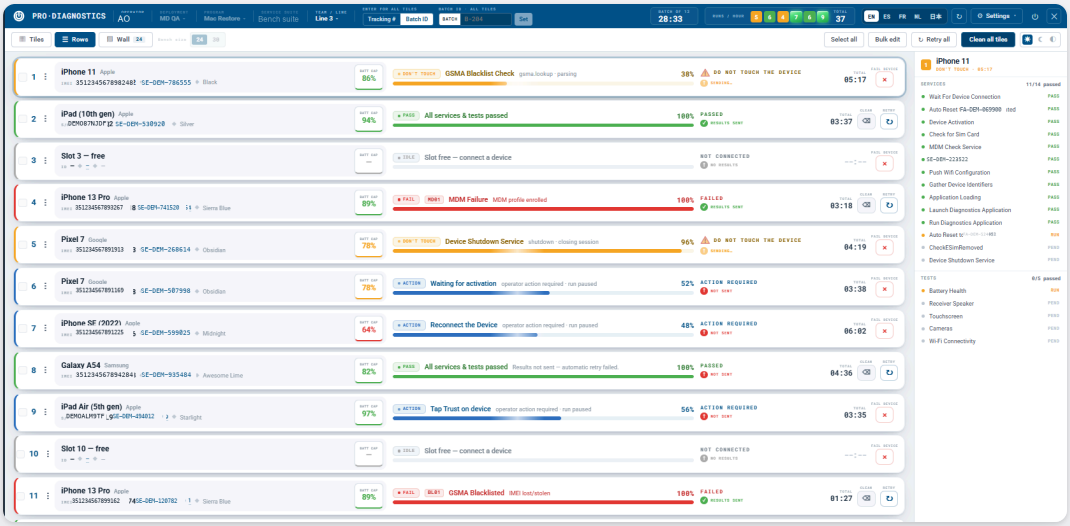


図2　Pro-Diagnostics Desktop → Rows。1つのステーションに 24 スロット、デバイスごとに 1 行で、現在のサービスと進捗を表示します。GSMA チェック実行中、MDM 失敗、GSMA ブラックリスト該当、要対応、合格。表示されている識別子は架空のものです。

機械でできるテストは、機械が行います。 バッテリー状態、ストレージ、OS バージョン、通信事業者、ロック状態、SIM 検出は、デバイスに触れずに読み取られます。オペレーターが作業を中断されるのは、ガイド付きテストで人の手が必要なときだけで、カードにその旨が表示されます。

1つのステーションで複数デバイスを処理。 各スロットは独自のプログラムを実行し、それぞれのサービス状態、バッテリー容量、経過時間を表示します。失敗時にはカードにサービス名と理由が表示されるため、オペレーターは調べ直すコードではなく、スロット上で「GSMA Blacklisted · IMEI lost/stolen」を読み取れます。

- **ガイド付きテストは測定します。問いかけません。** 深度の測定値、ボタンのカウンター、信号値は、判断を求める前に表示されます。
- **デバイスに搭載されていないハードウェアはスキップされ**、失敗にはならず、スキップとして記録されます。
- **失敗すると失敗コードの選択画面が開き**、理由がレコードとともに残ります。オーバーライドは合格ではなく、オーバーライドとして記録されます。
- **Windows でも Mac でも同じスイート**、同じ失敗コード、同じレコード形式です。モデルごとの対象・対象外は、Control Center でテストごとに設定します。

ガイド付きテスト・ロックと不正の検出・コンピューター

測定するガイド付きテスト。ロックは報告するのみで、回避は行いません。

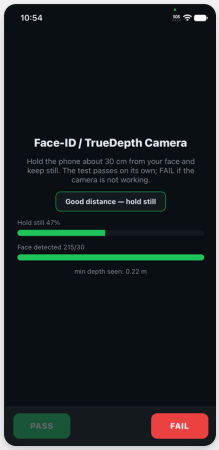


図3 On-device → Face ID。静止保持率、検出フレーム数、最小深度が、判断を求める前に報告されます。

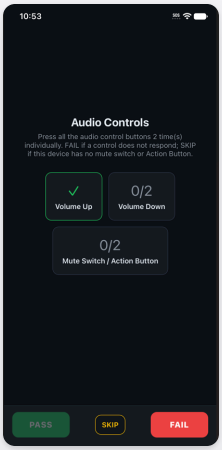


図4 On-device → Audio controls。ボタンごとのカウンターとスキップボタン。消音スイッチのないデバイスは失敗ではなくスキップされます。

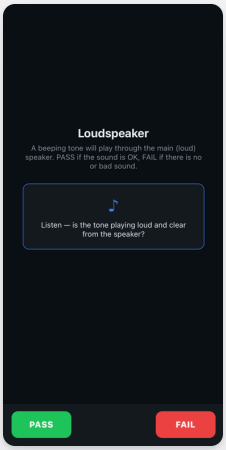


図5 On-device → Loudspeaker。1画面につき1つの指示。解釈するものも、記憶するものもありません。

別工程ではなく、処理中に確認します。

検出項目	報告内容	対象	ステータス
Apple ID ロック・Find My（FMIP / FMAP）	アクティベーションロックと Find My の状態を識別時に読み取り、カードに表示します。	iOS ・ Mac	● 報告
GSMA Lost & Stolen	IMEI を GSMA ブラックリストと照合します。該当した場合、理由を明示してスロットを失敗にします。	iOS ・ Android	● 報告
FRP・パスコード・偽造デバイス・非純正部品	出荷時リセット保護、パスコードとロック画面の状態、偽造デバイスの検出、非純正の交換部品、root や jailbreak、SIM・SD・eSIM の有無。	iOS ・ Android	● 報告
BIOS パスワード・Absolute・TPM	PC の再販を妨げるロックを、それぞれが何を妨げるかという形で表記します。	PC	● 報告
ロックの解除・回避	提供しません。ロックされたデバイスはロック済みとして記録し、お客様のワークフローに従って振り分けます。	すべて	● 実施せず

MAC・23 テスト

署名済みの macOS アプリを Mac 本体で実行します。

音声、カメラ、ディスプレイと入力、バッテリーと電源、接続性とポート、メモリ、ストレージと発熱、センサーと識別情報。macOS 13 以降の Mac に対応します。診断アプリが Mac を消去することはありません。消去は Mac Restore が行います。

PC・25 テスト

起動可能な Linux スティックを使用。インストール済みの OS は信頼も必要ともしません。

PC はスティックから 90 秒以内にアプリへ直接起動。WWAN と GPS、方位センサー、BIOS・Absolute・TPM のロックチェックが加わります。テスト中に全内蔵ドライブを背後で消去します。

対応デバイス

スマートフォン、タブレット、Mac、PC、ウォッチを同じ作業台で。

このカテゴリの多くはモバイルのみで止まります。コンピューターとスマートフォンを1つのワークフロー、1つのレコード、1つのレポートで処理できることが、単なるツールと運用プラットフォームの違いです。

対象	製品	テスト	消去	グレード	復元／フラッシュ	ADISA AAL 4
iOS & iPadOS	Pro-Diagnostic Desktop	● 83 テスト	コンテンツ消去、フラッシュ	● はい	PDD・Mac Restore で iOS フラッシュ	● 認証取得済み
Android	Pro-Diagnostic Desktop	● 133 テスト	コンテンツ消去、Express Connect 16+、フラッシュ	● はい	スマートフォンのフラッシュ	● 認証取得済み
macOS · 復元	Mac Restore	● テストなし	ファームウェア復元で Mac 消去	● はい	macOS・iOS のフラッシュ	● 認証取得済み
Mac · 診断	Pro-Diagnostic PC & Mac	● 23 テスト	Mac Restore が担当	● はい	Mac Restore が担当	● 該当なし
Windows PC	Pro-Diagnostic PC & Mac	● 25 テスト	すべての内蔵ドライブ、NIST 800-88 方式、検証済み	● はい	● いいえ	● 認証なし
Apple Watch Series 1–6	Apple Watch Receiving	ケーブル経由の受入	● 非対応	Watch タイプの SKU グループ	● いいえ	● 該当なし

スマートフォンとタブレット

Android 7,000+ モデル。iOS 90 モデル、4,500 バリエーション。

USB-C、Lightning、Micro-USB に対応。モデルが実行できないテストは、失敗ではなくスキップとして記録します。

コンピューター

macOS 13+ の全 Mac。UEFI 搭載の Dell、HP、Lenovo、ASUS の PC。

Mac は署名済みアプリでテストし、Mac Restore で消去します。PC は同じ起動スティックでテストと消去を行い、Windows のインストールは不要です。

APPLE WATCH

Series 1 から Series 6 まで、ケーブル経由。

識別と受入のレコードは、他のデバイスと並んで Control Center に記録します。Series 7 以降への対応は開発済みで、有効化の準備が整っています。

どのステーションが扱っても、レコードは1つ。 Pro-Diagnostic PC & Mac でテストし、Mac Restore で復元した Mac は、Control Center 上で1つの履歴を持ち、ステーションごとに1回の訪問が記録されます。

現場

6つの工程、1つのレコード、1つのプラットフォーム。

デバイスが到着した後に起こることは、すべて同じレコードに書き込まれます。全工程を1つのステーションで実行することも、ワークフローマネージャーで複数に分割することもできます。結合セッションにより、ステーションをまたいだ結果が1ページにまとまります。

1
受入
バッチラベルをスキャンします。オペレーター、プログラム、作業台、シフトはステーション設定から取得されます。

2
診断
自動テストは即座に開始され、ガイド付きテストの進行中も実行され続けます。

3
消去
方式はデバイスごとまたはドライブごとに選択され、完了とみなす前に検証されます。

4
グレード
お客様独自の基準による外観グレード。結果はオペレーター監査でサンプリングされます。

5
認証
消去レポートとデバイスレコードが書き込まれ、作業台で資産ラベルが印刷されます。

6
レポート
すべてがControl Centerに集約され、CSV または API で出ていきます。

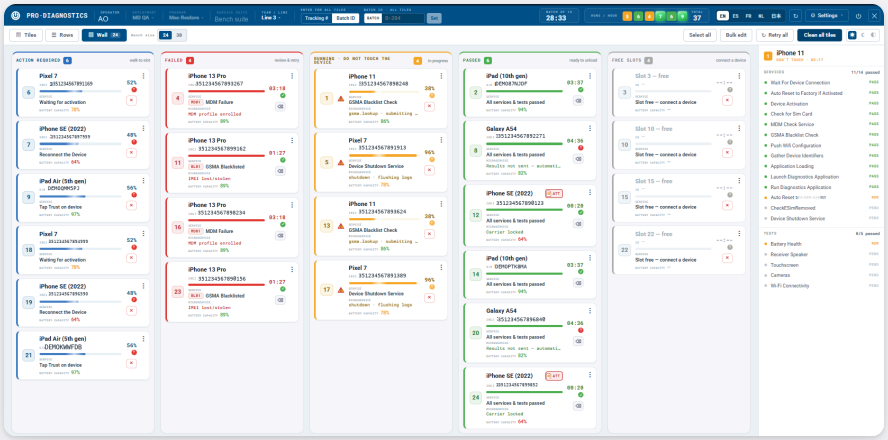


図6 Pro-Diagnostics Desktop → Wall。次に人の対応が必要なものの順に作業台を並べ替えます。要対応、失敗、実行中、合格、空き。監督者は全タイルを見渡すのではなく、該当スロットへ直接向かえます。同じ Wall は Mac Restore にもあります。

マルチデバイスステーション。 1台の Pro-Diagnostic Desktop または Mac Restore ステーションで複数のデバイスを同時処理し、各スロットが独自のプログラムを実行します。詳細はタイル、密度は行、トリアージは Wall。一括編集、全件再試行、全件クリーンが作業台全体に適用されます。

ワークフローマネージャー。 1つのステーションで最後まで実行することも、複数に分割することもできます。受入と診断は別の作業台、グレーディングは iPad で。結合セッションにより複数の訪問が1つの結果になります。

- **拠点・導入環境ごとのプログラム**と、Operation Management でのシフト、チーム、メンバー管理。
- **工程名はお客様が決定**：受入、診断、コンテンツ消去済み、フラッシュ、外観グレード、クリーニング、修理デポ、クレーム検証。
- **デバイススキャン** は、スキャンしたデバイスや CSV によるパレット全体について、最新の診断、グレーディング、消去の結果を統合します。
- **ステーションはオフラインでも動作します。** レコードはキューに入り、復旧時に送信します。

オペレーター、グレーディング、ラベル、お客様のデータモデル

オペレーターが推測ではなく、きちんと作業していることをどう確認しますか。

当社はオペレーター監査を先駆けて導入し、そのツールをプラットフォームに標準搭載しています。監査とは、プラットフォームが答えをすでに知っているテストを、通常のデバイス上で通常のキューに紛れ込ませるもので、実際の作業と見分けがつきません。

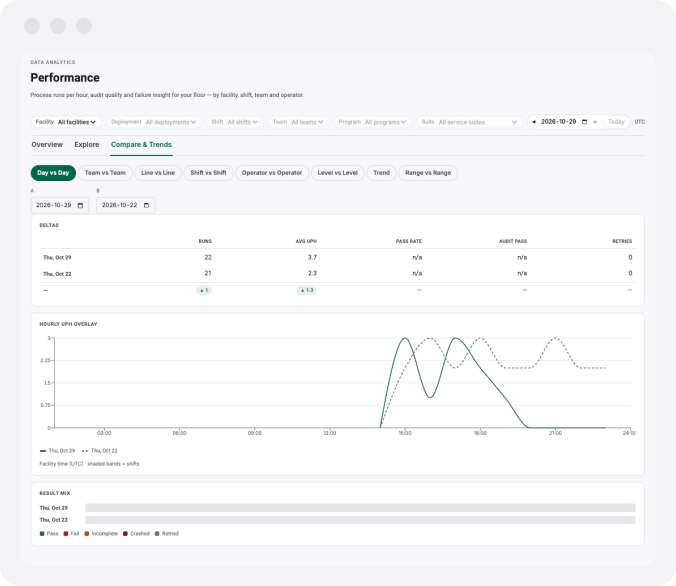


図7 Control Center → Data Analytics → Performance → Compare & Trends、Day vs Day。2日分の処理件数と平均 UPH を差分付きで、同じ時間軸上に拠点の現地時刻で重ねて表示します。

人ごとではなく、監査ステータスごとに。 実作業に対する監査比率はオペレーターの監査ステータスごとに設定するため、新人は手厚く、熟練者は控えめに監査されます。監査失敗は Performance Dashboard に、処理件数、合格率、平均 UPH、現在の UPH、再試行、未完了と並んで表示されます。

対処につながる UPH。 平均 UPH は稼働時間で加重し、シフトは時間軸上に網掛けで表示します。Day vs Day から Operator vs Operator、Level vs Level まで8種類の比較が可能です。上位の失敗理由・失敗テスト・失敗監査から、教育すべき点が分かります。

すべての操作は記録され、タイムスタンプが付き、オペレーターの ID に紐づけられるため、グレードに関する異議は個人と時点まで追跡できます。

グレーディングアプリ · IPAD

デバイスをスキャンし、カテゴリーをタップすれば完了。

グレーディングカテゴリーは顧客ごとに独自のコードと色で定義します。グレードが価格に影響する場合は二重グレーディングを行い、2人目は前の結果を見ずに判定します。1回目、2回目、最終のグレードはすべてレコードに残ります。

ラベル印刷

作業台でのブランド入り資産ラベル。

バーコードと QR のプレビュー付きテンプレート、Zebra またはシステムの PDF プリンター、エクスポートや CSV からマッピングしたフィールド。QR コードはそのデバイスの公開証明書に解決されます。特定のプリンターは必要ありません。

SKU グループ · カスタムフィールド

当社ではなく、お客様のデータモデル。

SKU グループはデバイスタイプが持つべき属性を定義し、SKU マネージャーがそのインポートとエクスポートを担います。カスタムフィールドは数値・文字列・リストに対応し、ログイン時または工程終了時に表示され、言語ごとにローカライズされ、当社の項目と並んでエクスポートされます。

2か所で設定します。 Operation Management → Audits で、拠点・オペレーター監査ステータスごとに監査比率を設定します。テストスイートでは、オペレーター監査は失敗コード表示や高速テストと並ぶ 0〜5 の設定項目です。ダッシュボードは、監査レベルの異なる2人のオペレーターを断りなく比較しません。

データ消去

当社が認証を取得している範囲と、それが正確に何を対象とするか。

この市場では、認証に関する主張がその適用範囲を超えて誇張されることが日常的にあります。当社は、認証取得製品名とともに、その適用範囲どおりに示します。

AAL 4
ADISA 保証レベル
Product Claims Test · ADISA Research Centre

800-88
NIST SP 800-88 Rev. 2
ドライブごとに明記される Clear と Purge

2883
IEEE 2883-2022
サニタイズの標準用語

ADISA

Pro-Diagnostics と MacRestore：ADISA 保証レベル 4。

ADISA Research Centre の Product Claims Test により第三者機関で試験されています。認証は記載された製品に適用されます。Pro-Diagnostic PC & Mac は ADISA 認証を取得していません。NIST 800-88 の方式とドライブごとの消去レポートを使用します。

方式	対象	仕組み	製品	標準規格
コンテンツ消去	iOS · Android	暗号化の種類を特定し、デバイスに適した方式でデータを削除し、再識別により初期化を確認します。	Pro-Diagnostic Desktop	NIST 800-88
Express Connect	Android 16+	USB デバッグは不要です。開発者設定なしでステーションから消去できます。	Pro-Diagnostic Desktop	NIST 800-88
スマートフォンのフラッシュ	iOS · Android	ファームウェアを書き換え、デバイスは既知の状態で戻ります。	Pro-Diagnostic Desktop	NIST 800-88
Mac の消去、ファームウェア復元	macOS · iOS	リカバリモードでクリーンイメージから OS を再インストールし、インストールされたイメージを SHA-256 チェックサムで検証します。	Mac Restore	NIST 800-88
NVMe セキュア消去 + 検証	NVMe SSD	ドライブ自体の sanitize コマンドによるブロック消去または暗号消去を行い、その後リードバックします。	Pro-Diagnostic PC	Purge
ATA sanitize + 検証	SATA SSD · SAS	ドライブ本来の sanitize、暗号スクランブル、またはブロック消去。	Pro-Diagnostic PC	Purge
PRNG 上書き、1 パス + 検証	HDD · eMMC · フォールバック	sanitize が非対応または失敗した場合に、アドレス可能領域全体を疑似乱数で 1 回上書きします。	Pro-Diagnostic PC	Clear

検証、レポート、拒否

コントローラーの「完了」という応答は信頼しません。

サニタイズ成功を報告するドライブは、自分自身について主張しているにすぎません。当社はそれを検証します。検証されていないドライブは、合格ではなく消去失敗として記録されます。

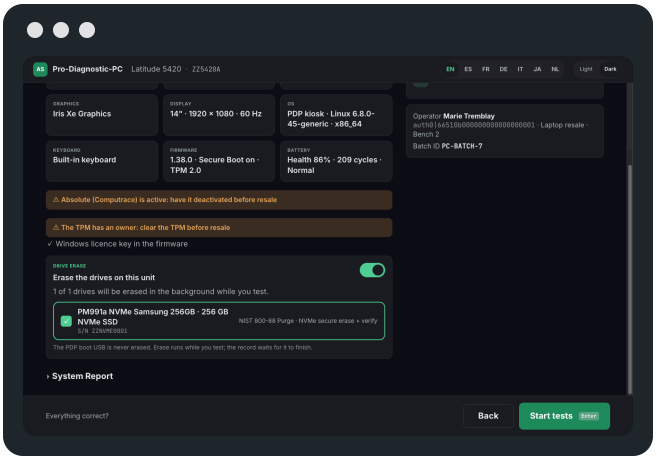


図8 Pro-Diagnostic PC → Device。NIST 800-88 Purge の対象に NVMe ドライブ1台を選択し、書き込み前にシリアルを明示します。Absolute と TPM の所有状態はロックとして報告します。

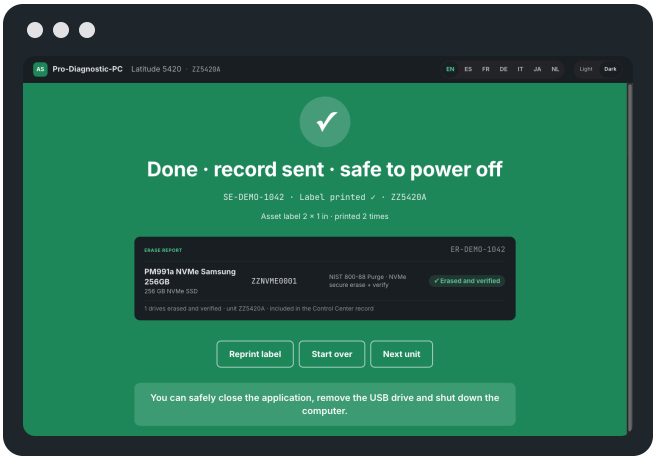


図9 Pro-Diagnostic PC → Done。レコードを送信し、ラベルを印刷し、ドライブごとの消去レポートを出力します。モデル、シリアル、方式、結果。

リードバックの仕組み · PC ドライブ

ディスク全体にわたるサンプリング。

消去後、エンジンはディスク全体に分散したサンプル地点でドライブを読み戻します。既定はドライブの 1%、最大 4,096 地点、各 4 MiB。復元可能なデータが残る地点が1つでもあればそのドライブは失敗、検証に失敗したドライブがあれば個体も失敗です。

そして、その限界

サンプリングであり、全数ではありません。

サンプル地点の間隙における消去不足は、確実にではなく確率的に検出されます。当社がこれを率直に述べるのは、数テラバイトのドライブを数分で完全に検証できると主張するベンダーは、事実ではないことを伝えているからです。

プラットフォームが消去を拒否する場合

ゲート	動作
実シリアルなし	システム、ボード、シャーシのシリアルが全てプレースホルダーなら消去を拒否します。
バッテリー残量不足	バッテリー駆動で 25% 未満なら充電器の接続を待ちます。
フリーズリスト	ドライブ確定後、書き込み前にシリアルを再確認。
中断	オペレーターが再消去か失敗の記録かを選ぶまで、消去は進みません。

レコードに残るもの

- **ドライブごとの消去レポート** に方式、結果、理由を記載し、個体レコードに添付します。スキップしたドライブは、実施者とともにスキップとして記録します。
- **スマートフォンと Mac の全レコードに方式を明記** 、証明書にも記載します：コンテンツ消去、Express Connect、フラッシュ、ファームウェア復元。
- **オフラインキュー。** レコードはまずディスクに書き込み、Control Center が受信を確認した後にのみ削除します。ネットワークを失ったステーションも作業を続け、後から追いつきます。レコードは失われません。

認証

アカウントなしで、誰でもデバイスを確認できます。

社外の誰も読めないレコードは、単なる主張です。処理したすべてのデバイスは、verified.assetscience.com/verify で IMEI、シリアル、MEID、GUID から照会できます。購入者、顧客の監査担当者、最終的にその端末を所有する人も利用できます。

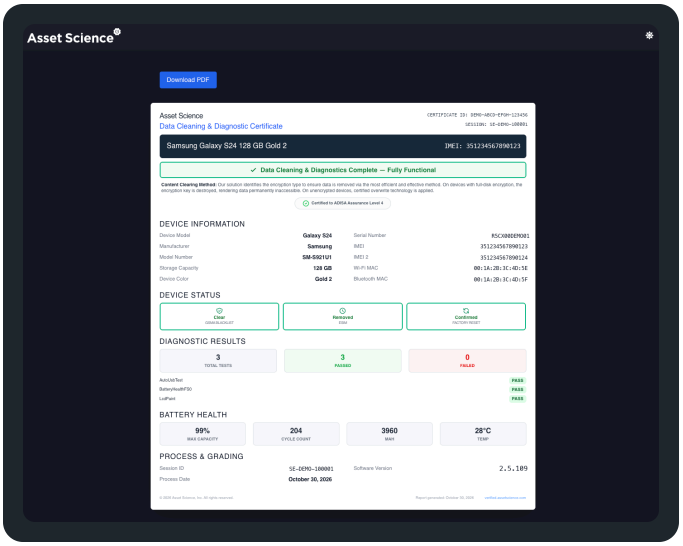


図10 verified.assetscience.com → 証明書。識別子、コンテンツ消去の方式、ADISA 保証レベル 4 のマーク、デバイス状態タイル、診断結果、バッテリー状態、PDF ボタンを表示します。

1つのレコードへ、3つの経路。

- **公開照会**：IMEI、シリアル、MEID、GUID で照会。未処理のデバイスは空白ではなく Not Found を返します。
- **共有リンクと PDF**。ラベル上の QR コードは同じ証明書に解決されます。
- **表示内容**：消去方式、該当する場合は ADISA 保証レベル、GSMA ブラックリストと初期化の状態、診断結果、バッテリー状態、工程、グレード。
- **失敗したデバイスが黙って認証されることはありません。** 実行しなかったチェックは N/A、消去前に失敗した工程は Process Failed と表示されます。
- **社内と社外の表示は一致します。** 公開ページは Device History レコードのビューで、第2のコピーではありません。

顧客アカウントごとに3つのスイッチを Control Center で設定します。

設定項目	許可される内容
結果を公開検索に公開	処理したデバイスを、誰でも IMEI またはシリアルで照会し、消去と診断の結果を閲覧できます。
公開証明書リンクを許可	証明書リンクを持つ人は、サインインせずに証明書ページを開けます。Device History の Public Certificate ボタンと、エクスポートしたレポート内のリンクも制御します。
公開 PDF ダウンロードを許可	証明書リンクを持つ人は、サインインせずに PDF をダウンロードできます。ページ公開とは意図的に別のスイッチです。

バッチ単位の証跡

パレット単位で扱う人が、証明書を1件ずつ開くことはありません。

照会画面からスキャンしたバッチを CSV にエクスポート。最大 30,000 件で一括照会でき、証明書 PDF のバッチ生成とレポート内の証明書リンクに対応します。

どの製品が発行するか

適用範囲どおりに記載。

Pro-Diagnostics と MacRestore の証明書には ADISA 保証レベル 4 のマークが付きます。Pro-Diagnostic PC のレコードは消去レポートと NIST 800-88 の方式を示しますが、マークは付きません。

データとレポート

依頼して受け取るレポートではなく、自分で操作するグリッド。

すべての処理、すべてのオペレーター、すべてのデバイスを、当社にレポートを依頼することなく、検索・グラフ化・エクスポートできます。集計値は工場管理者のためのものです。顧客が特定の1台について異議を唱えたときは、プラットフォームがその個体自身のレコードを提示します。

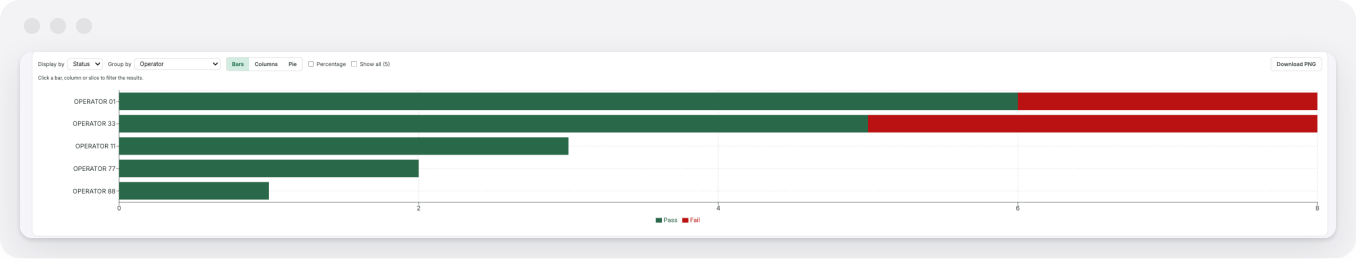


図11　Control Center → Reporting → Explore、グラフ帯。絞り込み中の行をオペレーター別に合格と失敗でグラフ化します。バーをクリックするとグリッドが絞り込まれます。

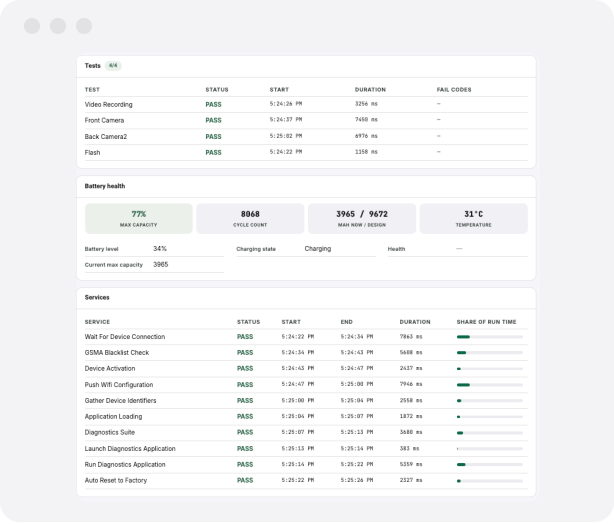


図12　Control Center → Device History。所要時間付きの全テスト、バッテリー状態タイル、実行順の10サービスと処理全体に占める割合を表示します。

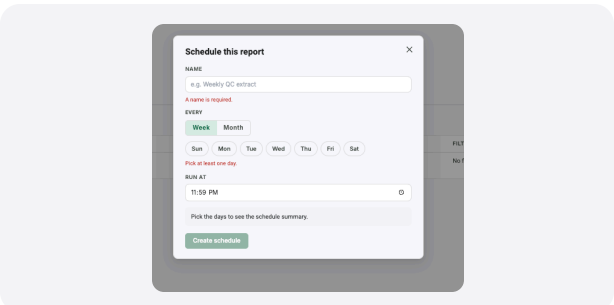


図13　Reporting → Schedule this report。週次・月次で曜日と時刻を指定。

- **個体ごとの履歴**：IMEI、シリアル、OS、ストレージ、色、地域、すべてのテスト、すべてのサービス、すべてのオーバーライド、消去とグレード。任意の識別子による全体検索。
- **ダッシュボード**：拠点ごとの日次パフォーマンス指標。処理件数、合格率、平均 UPH、現在の UPH、監査失敗、再試行、未完了。
- **日次比較** とさらに7種類の比較を、シフト帯付きの同じ時間軸上に描画します。
- **Explore**：ライブグリッドを絞り込み、そこからグラフを作成し、識別子の CSV で一括検索します。
- **エクスポート**：47 の選択可能な列、CSV、JSON、Excel 形式。お客様のカスタムフィールドも当社の項目と同じ一覧に並びます。ダウンロード、自分宛てにメール送信、ログインのない相手へのメール送信が可能です。
- **スケジュールレポート**は、週次または月次で、指定した曜日と時刻に実行されます。
- **データインポートツール** はデバイスリストと手動アップロードに対応し、必須フィールドに照らして検証されます。

機能制限もエクスポート料金もありません。 完全な CSV エクスポートと REST API は、すべてのプランに含まれます。お客様のデータは、お客様のものです。

API 連携

レコードは、入ってくるときと同じように簡単に出ていきます。

ベンダーのダッシュボードに閉じ込められた診断結果には、ほとんど価値がありません。現場が生み出すすべてを、API、エクスポート、スケジュールレポートで利用できます。

一貫した REST。 Back-Office API Suite は、プラットフォームの各サービスにわたる統一されたリソースエンドポイントを、ベアラートークン認証で提供します。データは出るだけでなく入ります。サードパーティの結果やデバイス一覧は、同じ API で取り込めます。

キーは、到達すべき業務範囲に合わせてスコープを設定します。 キーはテナント、拠点、または単一の導入環境にスコープされるため、ある拠点の連携が別の拠点を読み取ることはできません。

GSMA Device Check。 盗難・紛失チェックは同じプラットフォーム上で実行され、本契約前に無料のテストモードを利用できます。キャッシュ期間内の再チェックはキャッシュから応答され、課金されません。使用状況画面にその内訳が表示されます。

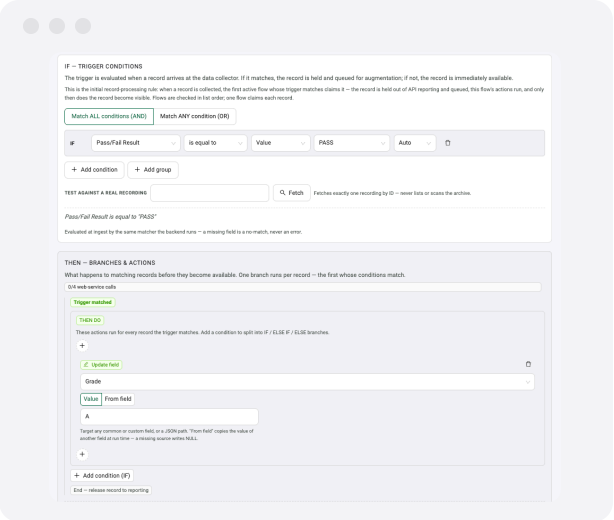


図14 Control Center → Automation → Edit flow。レコードの Pass/Fail 結果が PASS であれば、レポートへ公開される前に Grade フィールドを更新します。フローはウェブサービス接続を呼び出すこともできます。

連携ポイントの概要。

連携	機能	対象
REST API	統一エンドポイント、ベアラートークン認証、投入と抽出。キーはテナント、拠点、導入環境にスコープされます。	Back-Office API Suite
自動化フロー	収集後、レポート前にレコードを補強するルール。IF トリガー、THEN フィールド更新またはウェブサービス呼び出し。最初に一致したものが適用され、レコードごとに1フロー、実行ログ付き。	Control Center → Automation
ウェブサービス接続	フローから呼び出せる再利用可能な REST 呼び出し。URL、メソッド、ベアラーまたはヘッダー認証、書き込み専用シークレット。使用前にサンプル呼び出しで検証します。	Control Center → Automation
GSMA Device Check	ブラックリストとグレーリストの状態と、その背後の IMEI 履歴。無料のテストモードあり。キャッシュ応答は課金されません。	ステーションと API
ERP · WMS · NetSuite	プログラムオプションとして結果を NetSuite に送信。RMA の結果は在庫を管理する ERP または WMS に送られます。	設定ウィザード · RMA モジュール
MDM · Zero-Touch	MDM で診断アプリを全デバイスに自動承認。手作業のプロファイル信頼は不要。	設定ウィザード

製品ラインアップ

10 製品。1つの Control Center。デバイスごとに1つのレコード。

すべての製品が同じ場所にレポートし、同じプログラムを読み込みます。各製品には詳細を網羅した個別のホワイトペーパーがあります。

IOS & ANDROID · WINDOWS と MAC

Pro-Diagnostic Desktop（PDD）

作業台での複数デバイス同時診断を、Windows または Mac ステーションで。Android 133、iOS 83 のテスト。データ消去は ADISA 保証レベル 4 の認証を取得しています。

Pro-Diagnostic Desktop のホワイトペーパーを見る

IOS & MACOS

Mac Restore

Mac 上で動作する完全な復元プラットフォーム。iOS と macOS のフラッシュ、ADISA 保証レベル 4 の認証を取得したデータ消去、レポートと証明書、PDF とウェブ。

Mac Restore のホワイトペーパーを見る

コンピューター診断とマルチドライブ消去

Pro-Diagnostic PC & Mac（PDP）

PC と Mac の診断とドライブ消去。個体ごとの完全なハードウェアプロファイル、NIST 800-88 方式による内蔵ドライブ消去、ドライブごとの消去レポート。

Pro-Diagnostic PC & Mac のホワイトペーパーを見る

クラウドポータル

Control Center

ウェブベースの管理プラットフォーム。ワークフローと現場を完全に自社で管理できます。独自に定義するパラメーターと失敗コード、カスタムテスト、既定の設定バンドル、ロールベースアクセス。

Control Center のホワイトペーパーを見る

アナリティクス

データ＆レポートプラットフォーム

個体ごとの完全な履歴、オペレーター監査、パフォーマンスダッシュボード、トレンド分析。スケジュールによる自動レポートと、CSV および API による完全なデータエクスポート。

データ＆レポートのホワイトペーパーを見る

スマートフォン版 CARFAX

Public Web Certification

処理したデバイスを、誰でも verified.assetscience.com で IMEI またはシリアルから照会し、消去証明書を確認できます。共有リンク、PDF、バッチ CSV、バッチ PDF。

Public Web Certification のホワイトペーパーを見る

連携レイヤー

Back-Office API Suite

データの入出力のための REST API。キーはテナント、拠点、または単一の導入環境にスコープされます。無料テストモード付きの GSMA Device Check、CSV と Excel のエクスポート、スケジュールレポート。

Back-Office API Suite のホワイトペーパーを見る

SERIES 1 から SERIES 6

Apple Watch Receiving

ケーブル経由の Apple Watch 受入ワークフロー。識別と受入のレコードは Control Center に記録されます。Series 6 より先への対応は開発済みで、有効化の準備が整っています。

Apple Watch Receiving のホワイトペーパーを見る

品質管理

手動グレーディング＆クリーニングアプリ

作業台でのタブレットによるグレーディング。デバイスをスキャンし、カテゴリーをタップすれば完了。顧客ごとのグレーディングカテゴリー、グレードが価格に影響する場合の二重グレーディング、UPH とオペレーター監査。

手動グレーディング＆クリーニングのホワイトペーパーを見る

返品管理

RMA 処理モジュール

ERP・WMS 連携による、エンドツーエンドの RMA 処理と対応追跡。返品承認ワークフロー、対応追跡、処分管理。

RMA 処理モジュールのホワイトペーパーを見る

導入の進め方

作業台に置いて、確かめてください。

自社の現場で、自社のデバイスを、自社のグレーディング基準で処理できます。開始前にクレジットカードも営業との面談も不要で、購入すべき専用ハードウェアもありません。

1

お申し込み

onboarding.assetscience.com/onboarding/account でアカウントを作成します。トライアルは最初のサインインから開始します。

2

ステーションを設置

すでにお持ちの Windows PC または Mac に Pro-Diagnostic Desktop を、Mac に Mac Restore を導入します。ご自身のテナントにサインインしてください。

3

バンドルから開始

既定の設定バンドルにより、初日からプログラム、スイート、失敗コードが揃います。設定ウィザードで調整できます。

4

処理して照会

デバイスをテストして消去し、Control Center でそのレコードを開き、verified.assetscience.com/verify で検索してください。

一言でいえば

現場全体を1つのプラットフォームで。主張は適用範囲どおりに。

Android 133、iOS 83、Mac 23、PC 25 のテスト。消去は Pro-Diagnostics と MacRestore で ADISA 保証レベル 4 の認証を取得しています。PC では NIST 800-88 の方式とドライブごとの消去レポートを使用します。ロックは報告するのみで、回避は行いません。すべてのデバイスに公開証明書を、すでにお持ちのハードウェア上で。

自社のデバイスで確かめてください。

無料トライアルを開始し、自社施設のステーションでプラットフォームを実行してください。Pro-Diagnostic PC & Mac、API Suite、Apple Watch Receiving、RMA モジュールは当社とともに設定します。処理量が必要とする段階になりましたら、ご相談ください。

無料トライアル
onboarding.assetscience.com/onboarding/account

公開証明書
verified.assetscience.com/verify

ウェブ
assetscience.com

© 2026 Asset Science. スクリーンショットは製品ビルドのものです。表示されているデバイス識別子、セッション ID、オペレーター名、顧客データは架空のものです。Pro-Diagnostics と MacRestore は ADISA Product Claims Test に基づき ADISA 保証レベル 4 の認証を取得しています。Pro-Diagnostic PC & Mac は ADISA 認証を取得していません。Apple、Mac、iPhone、iPad、Apple Watch は Apple Inc. の商標です。製品名および商標は各権利者に帰属します。